

平成29年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input checked="" type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	特殊木管楽器及び弦楽器修繕
報告者氏名・所属・職名	阿部博光・岩見沢校音楽文化専攻・教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	阿部博光・岩見沢校音楽文化専攻・教授 長岡聡季・岩見沢校音楽文化専攻・特任准教授
研究内容及び成果の概要	
<p>本研究は、教育的合奏における、特殊木管楽器仕様を伴う楽曲演奏による、演奏者の上層的発達と技術的進歩を解析するものである。</p> <p>大元の媒体を「合奏」授業における吹奏楽及びオーケストラとし、特殊木管楽器を用いる作品を取り入れることで大きく変化する楽曲の「響き」の違いを感じ、演奏者の心身にとっての高い音楽的効果を見極める「審美眼」を養わせることも、重要性の一つである。</p> <p>ここでの特殊木管楽器とは、「コールアンブレ、バスクラリネット、コントラアルトクラリネット、そしてチェロ」である。主に楽曲全体の中低音域を支える楽器である。チェロは弦楽器ではあるが、オーケストラの中における管楽器奏者を観察するうえで、もっとも重要な中低音域楽器であると認識している。</p> <p>結論として、これらの中低音域楽器を充実させることによって、より豊かな倍音が空気中に広がることがわかった。この倍音とはすなわち自然倍音であり、人工物によって取り巻かれている現代人間社会との、ある意味アンチテーゼとしての存在とも言えると同時に、自然物としての人間には必要不可欠なファクターであることが確認された。</p> <p>またここでは、楽曲の時代性や文化性という要素は、ある意味多様性の一部でしかなく、演奏者の経験値の低い時代性もしくは文化性の作品であっても、作品の質すなわち倍音の質がなんらかの形で人間成長に大きな影響を及ぼすことがわかった。</p> <p>今回の研究をもとに、「見えるものへの感覚、見えないものへの感覚」の壁を自由に行き来できる「共感覚」を要請・涵養することが、音楽を通じて人間形成することの最重要要素であることを確認した。従って、これ以降は、より良い作品を構築するための重要要素～技術的な～を研究していきたい。</p>	
成果の公表の状況	
<p>【著書】モーリス・ラヴェル作曲／渡部謙一編曲「道化師の朝の歌」（NEXSUSS出版、平成30年8月予定）北海道教育大学スーパーウィンズ ストリーミング配信（ナクソス・ミュージック・ライブラリー平成30年9月予定）。北海道教育大学ミュージック・キャラヴァン2017</p> <p>【学術論文】当初予定していた「芸術スポーツ文化研究4」が刊行されないことになったため、その他の学内紀要に投稿予定（平成30年度内に脱稿）</p>	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
ヴィエルヌ／田村文生：交響曲第4番（ブレーン株式会社）、バルトーク／阿部俊祐：弦楽のためのディヴェルティメントより（ネクサス出版）他	
配布又はダウンロード可能な資料	上記出版者参照 映像は、本学広報ウェブサイト
問合わせ先	代表者：阿部博光 電話：0126-32-0363 FAX： mail：abe.hiromitsu@i.hokkyodai.ac.jp